

桐生商工会議所管内
景況調査報告書
第144回

(2024年1～3月期)

令和6年5月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2024年3月1日

3. 調査期間 2024年1～3月期

4. 調査対象企業数 380企業（うち回答企業数142企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数22企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数66企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数28企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数26企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で－24。前期（－15）比は－9ポイントとなった。また前年同期（－19）比では－5ポイントとなった。

業種別では、**建設業－32**（前期比－27、前年同期比－18）、**商業・サービス業－26**（前期比±0、前年同期比＋8）、**機械金属製造業－17**（前期比－21、前年同期比－2）、**繊維製造業－19**（前期比±0、前年同期比－23）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で－29。前期（－20）比は－9ポイント、前年同期（－30）では＋1ポイントとなった。

業種別では、**建設業－48**（前期比－22、前年同期比－5）、**商業・サービス業－31**（前期比－2、前年同期比－9）、**機械金属製造業－20**（前期比－8、前年同期比－2）、**繊維製造業－19**（前期比－12、前年同期比－7）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で－20。前期（－11）比では－9ポイント、前年同期（－18）比では－2ポイントとなった。

業種別では**建設業－30**（前期比－24、前年同期比－25）、**商業・サービス業－21**（前期比＋2、前年同期比＋11）、**機械金属製造業－16**（前期比－41、前年同期比＋8）、**繊維製造業－10**（前期比＋7、前年同期比－26）となっている。

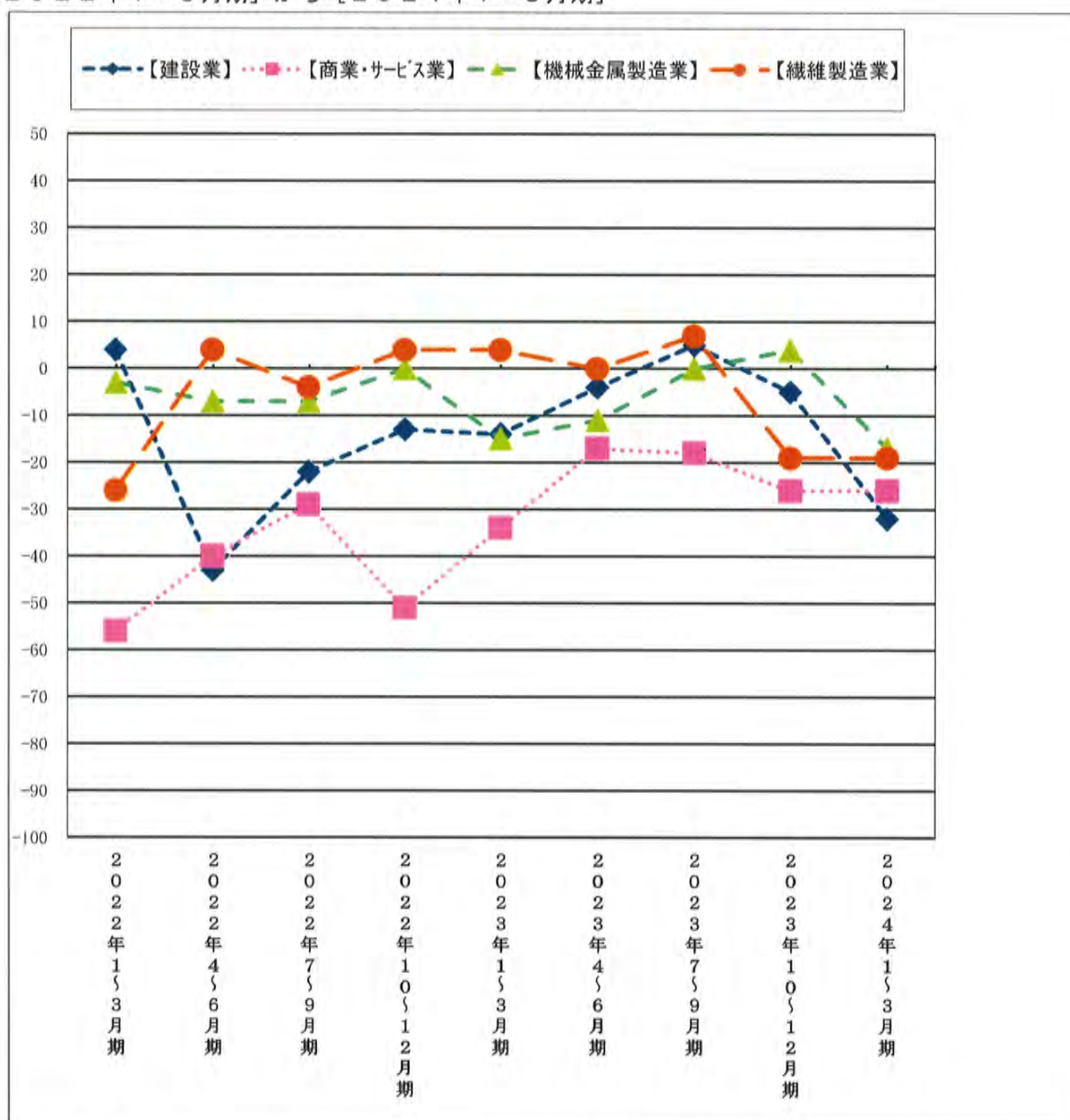
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（18.5%）「従業員の確保難」（16.7%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（17.0%）「従業員の確保難」（13.1%）、**機械金属製造業**では「需要の停滞」（16.2%）「従業員の確保難」（14.9%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（16.9%）「需要の停滞」（14.1%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2022年1～3月期	4	-56	-3	-26
2022年4～6月期	-43	-40	-7	4
2022年7～9月期	-22	-29	-7	-4
2022年10～12月期	-13	-51	0	4
2023年1～3月期	-14	-34	-15	4
2023年4～6月期	-4	-17	-11	0
2023年7～9月期	5	-18	0	7
2023年10～12月期	-5	-26	4	-19
2024年1～3月期	-32	-26	-17	-19

[2022年1～3月期] から [2024年1～3月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

●今期業況

今期の業況DIは－32。前期比は－27、前年同期比では－18ポイントとなった。

業種別では**建築・大工業〔－56〕**、**土木業〔±0〕**、**管工事業〔±0〕**、**鉄骨・鉄筋業〔±0〕**、**電気工事業〔－67〕**、**その他〔±0〕**ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－30。前期比－24、前年同期比では－25ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

●今期業況

今期の業況DIは－26。前期比は±0、前年同期比では＋8ポイントとなった。

業種別では、**卸売業〔＋50〕**、**小売業〔－50〕**、**飲食業〔＋20〕**、**サービス業では〔－22〕**ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－21。前期比＋2、前年同期比では＋11ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

●今期業況

今期の業況DIは－17。前期比では－21、前年同期比では－2ポイントとなった。

業種別では、**鉄鋼業〔－100〕**、**非鉄金属業〔±0〕**、**金属製品業〔－13〕**、**一般機械器具業〔－50〕**、**電気機械器具業〔±0〕**、**輸送用機械器具業〔－17〕**、**精密機械器具業〔±0〕**、**プラスチック製造業〔±0〕**、**その他〔±0〕**ポイントとなった。

●来期業況

来期業況予測のDIは－16。前期比－41、前年同期比＋8ポイントとなっている。

【繊維製造業】

●今期業況

今期の業況DIは－19。前期比では±0、前年同期比では－23ポイントとなった。

業種別では、**織物業〔±0〕**、**染色整理業〔－50〕**、**ニット・メリヤス業〔－50〕**、**レース業〔－50〕**、**縫製業〔＋100〕**、**刺繍業〔±0〕**ポイントとなった。

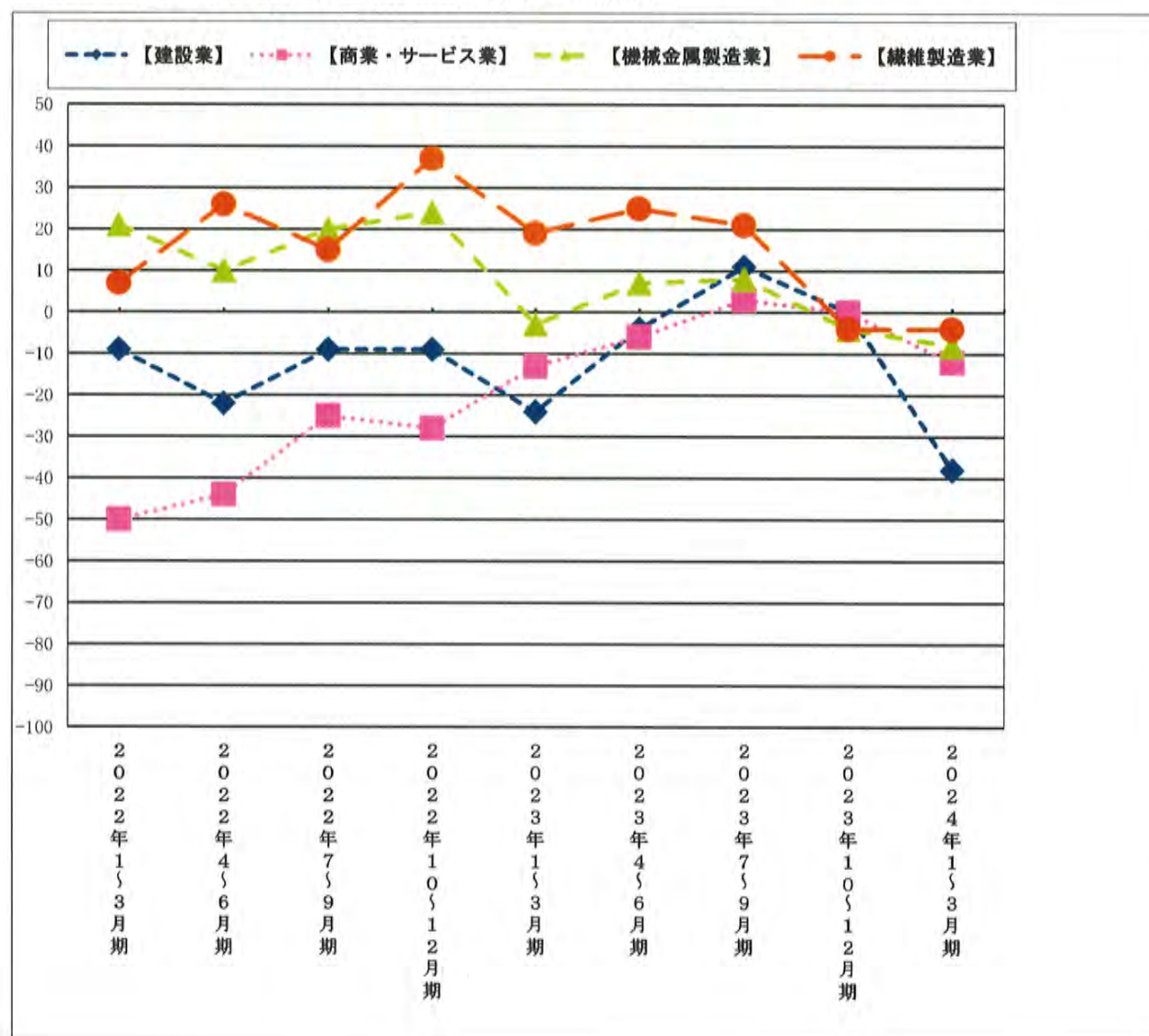
●来期業況

来期業況予測のDIは－10。前期比＋7、前年同期比では－26ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

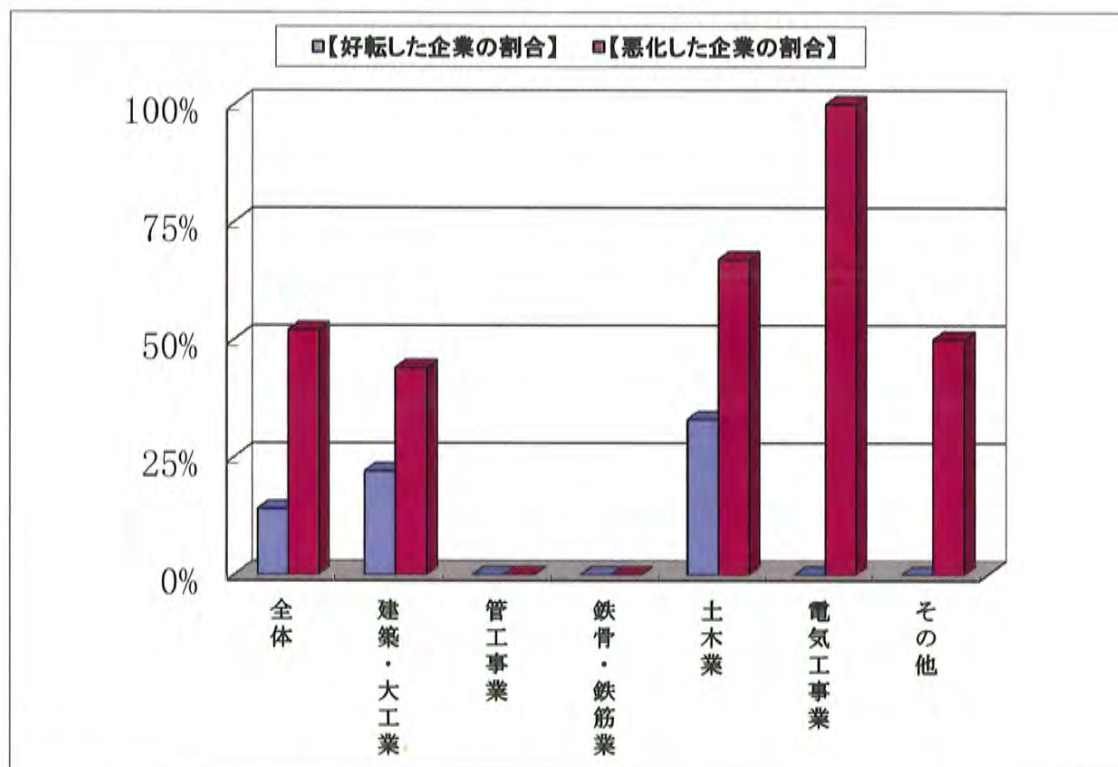
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2022年1～3月期	-9	-50	21	7
2022年4～6月期	-22	-44	10	26
2022年7～9月期	-9	-25	20	15
2022年10～12月期	-9	-28	24	37
2023年1～3月期	-24	-13	-3	19
2023年4～6月期	-4	-6	7	25
2023年7～9月期	11	3	8	21
2023年10～12月期	0	0	-4	-4
2024年1～3月期	-38	-12	-8	-4

[2022年1～3月期] から [2024年1～3月期]

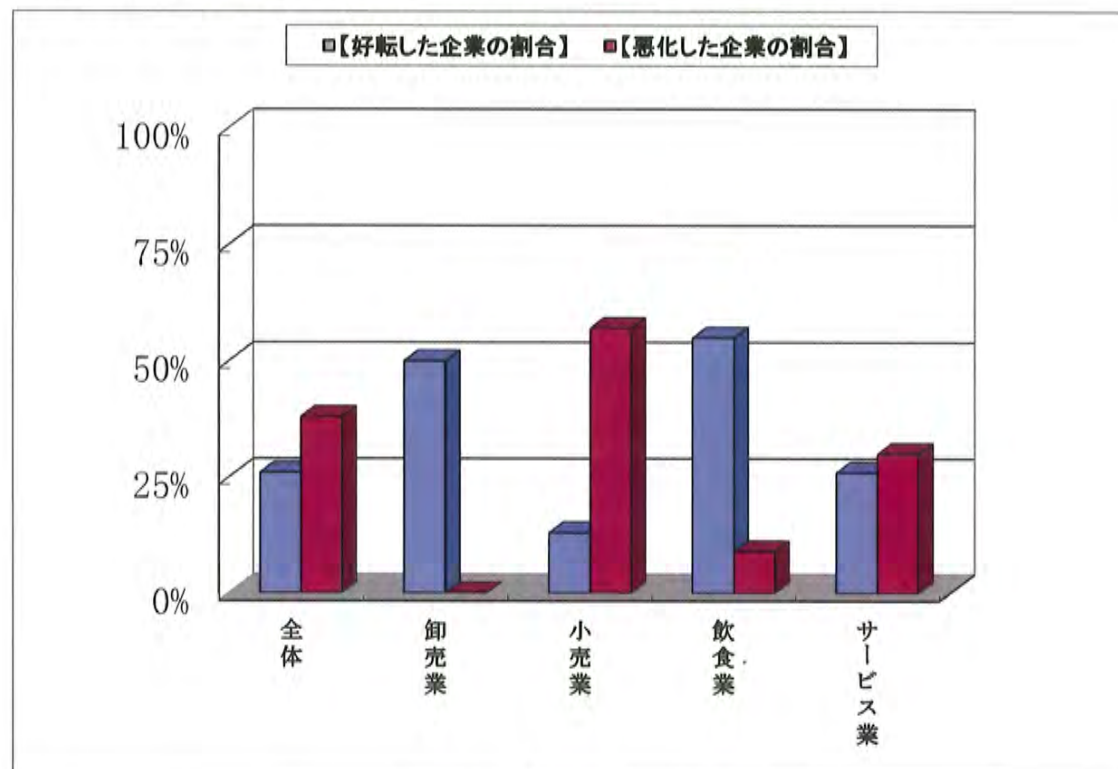


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

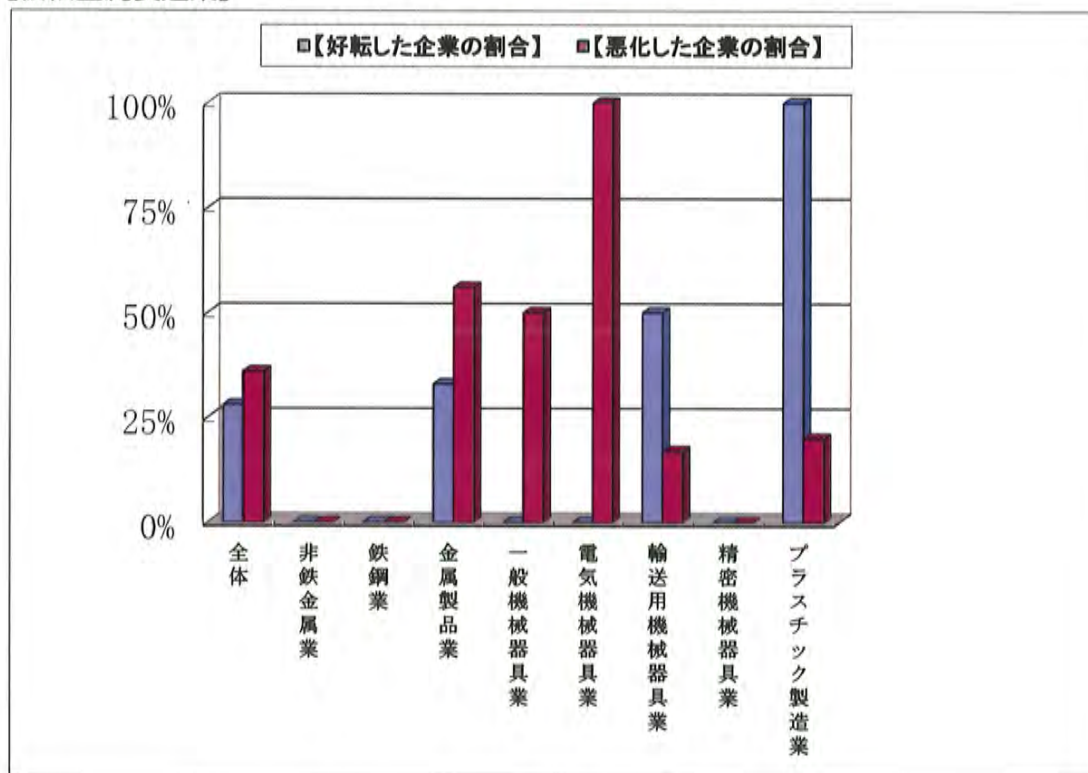
【建設業】



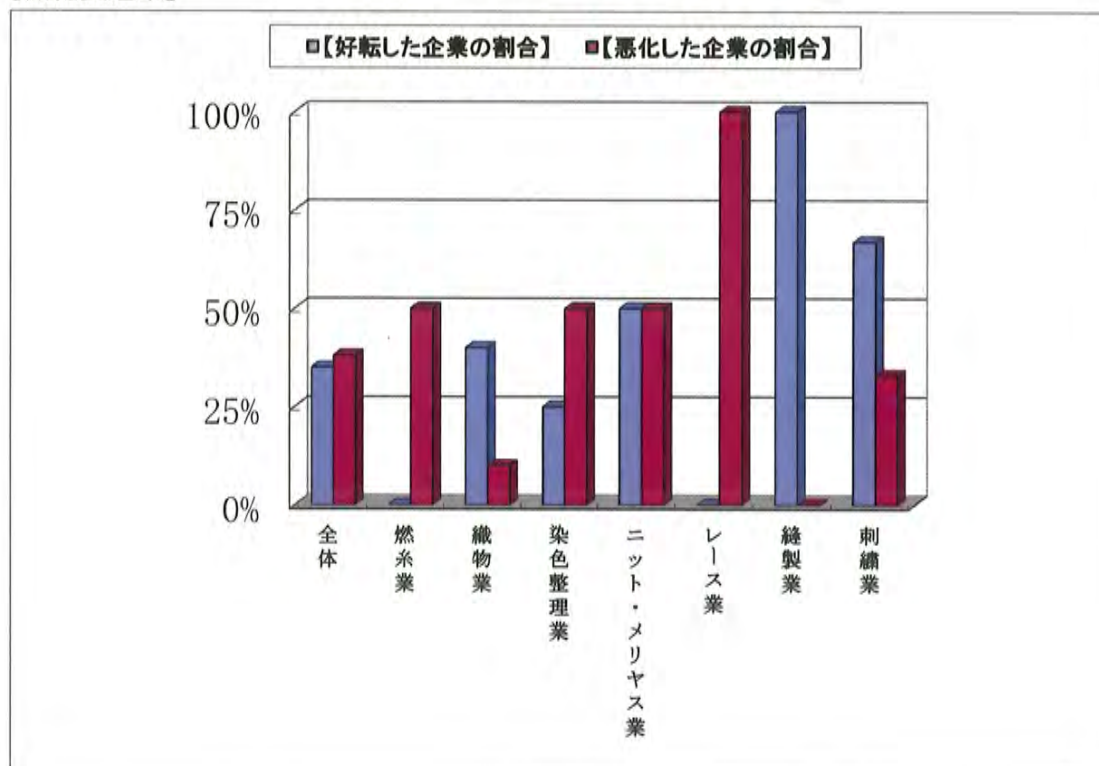
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



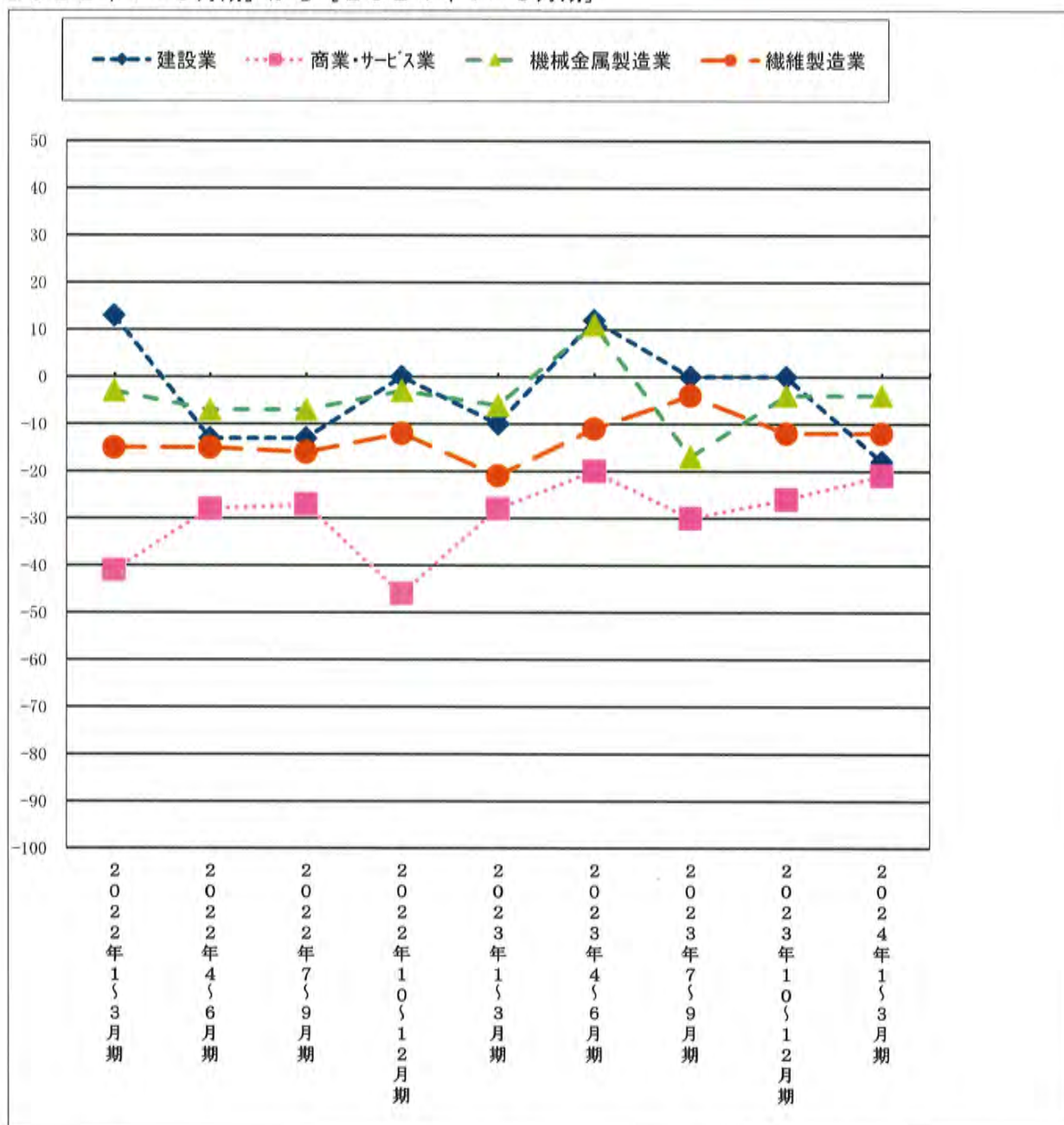
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
2022年1～3月期	13	-41	-3	-15
2022年4～6月期	-13	-28	-7	-15
2022年7～9月期	-13	-27	-7	-16
2022年10～12月期	0	-46	-3	-12
2023年1～3月期	-10	-28	-6	-21
2023年4～6月期	12	-20	11	-11
2023年7～9月期	0	-30	-17	-4
2023年10～12月期	0	-26	-4	-12
2024年1～3月期	-18	-21	-4	-12

[2022年1～3月期] から [2024年1～3月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	材料価格の上昇 18.5	従業員の確保難 16.7	民間需要の 停滞 14.8	材料の入手難 13.0	人件費の増加 7.4
前期	1位 22.4	3位 14.3	2位 16.3	4位 10.2	6位 6.1
前年同期	1位 22.4	4位 8.9	3位 10.7	2位 12.5	10位 3.6
商業・サービス業	材料等仕入単価 の上昇 17.0	従業員の確保難 13.1	需要の停滞 11.9	人件費の増加 11.4	消費者ニーズの 変化への対応 8.0
前期	1位 16.4	4位 10.5	3位 13.2	5位 8.6	2位 14.5
前年同期	1位 19.7	5位 9.9	2位 12.7	4位 11.3	2位 12.7
機械金属製造業	需要の停滞 16.2	従業員の確保難 14.9	製品単価の低下 ・上昇難 12.2	原材料価格の 上昇 12.2	人件費の増加 10.8
前期	3位 12.2	3位 12.2	2位 13.5	1位 14.9	6位 10.8
前年同期	5位 9.9	3位 13.2	2位 14.3	1位 19.8	6位 8.8
繊維工業製造業	原材料価格の 上昇 16.9	需要の停滞 14.1	製品単価の低下 ・上昇難 14.1	生産設備の不足 ・老朽化 11.3	原材料費・人件費 以外の経費の増加 11.3
前期	1位 20.5	2位 16.4	4位 9.6	4位 9.6	8位 5.5
前年同期	1位 29.0	2位 14.5	4位 8.7	5位 7.2	3位 13.0

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- ・官民需要の停滞
- ・人材不足
- ・同業他社の競争による優良物件の取り合いあり

〔商業・サービス業〕

- ・高齢化による客数減少及び納品先の減少
- ・人口減少
- ・新型コロナが2類から5類になっても高齢のため東京に仕入に行けず新商品を入れることができない。休みの日を多くして電気代等の経費を減らしている
- ・仕入値が上がり賃金があがり完全に脱デフレ状況になっている。今後のインフレ景気が良い状況では価格転嫁だけでは損益計算書は改善しない。いかに経営革新できるかが勝負。
- ・一定水準のサービス供給力の低下
- ・人材不足、人件費高騰、材料価格の上昇による赤字現場の増加
- ・円安影響により輸入食材の値上げが続いている。価格影響が難しい状況となっている。為替レートの改善が望まれる
- ・地域内全体の購買力減少が大きな問題点となる
- ・現状、家族葬が中心となっている業界であるが、一般葬の取り込みを図るべく営業を展開中
- ・ネット販売の拡大が店の売上低下になっている

〔機械金属関連業〕

- ・半導体製造装置の戻りが2024年秋から少し前倒しになってきたように感じる。世の中あとは給料さえ上がればとの大合唱だが本当にそうだろうか。デフレからの脱却がターゲットなのかインフレにしたいのか、支離滅裂な政策がとられているようで大変心配。
- ・従業員確保の為、昨年は賃上げを実施（約5%）。客先と価格交渉していますが、対応頂けず採算性が悪化しています。大手企業の配当、内部留保、社員満足向上のみで取引先経営状況への配慮姿勢は希薄。コストカット経営からの脱却を望みます。

〔繊維工業〕

- ・生産設備の老朽化、これを活用して物を創る熟練技術者がいなくなり商品が出来ない